

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年8月14日
【四半期会計期間】	第24期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	株式会社アイフリークモバイル
【英訳名】	I-FREEK MOBILE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 邦臣
【本店の所在の場所】	東京都新宿区新宿二丁目1番11号
【電話番号】	03（6274）8901（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 三宅 公崇
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区新宿二丁目1番11号
【電話番号】	03（6274）8901（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 三宅 公崇
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第23期 第1四半期連結 累計期間	第24期 第1四半期連結 累計期間	第23期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	624,879	649,852	2,605,010
経常利益 (千円)	30,473	4,135	150,055
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	29,475	3,942	148,604
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	29,475	3,942	148,604
純資産額 (千円)	704,249	777,650	826,264
総資産額 (千円)	1,154,256	1,173,469	1,195,154
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	1.65	0.22	8.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	1.65	-	-
自己資本比率 (%)	60.7	65.7	68.6

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 第23期及び第24期第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社については、2023年5月16日に当社の完全子会社である株式会社I-FREEK GAMESを設立していません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行され、社会経済活動の正常化と景気の緩やかな持ち直しの動きがみられました。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の上昇や、世界的な金融引き締めが続く中での景気への影響など、経済情勢の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、売上高については前連結会計年度における株式会社グランディール、株式会社グランソル及び株式会社グランデュオからの事業の一部譲受けの影響により前年同四半期比で増加したものの、コンテンツ事業におけるイベントの出展費用やサービスの改修費用などの先行投資による費用の増加等により、増収減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は649,852千円（前年同四半期比4.0%増）、営業損失は4,040千円（前年同四半期は22,612千円の営業利益）、経常利益は4,135千円（前年同四半期比86.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,942千円（前年同四半期比86.6%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### <コンテンツ事業>

コンテンツ事業におきましては、デジタル絵本アプリ「森のえほん館」での新作配信、著名人とのコラボレーション企画及び知育アプリにおける施策に注力いたしました。

また、絵本を読んで語学学習ができるアプリ「なないろえほんの国」が2023年4月1日より株式会社やる気スイッチグループが運営するバイリンガル幼稚園で利用されるコンテンツとして採用され、同年6月末には子ども向けのYouTubeチャンネル「Popo Kids「ポポキッズ」」のチャンネル登録者数が10万人を突破するなど、当社グループのコンテンツの重要性が確認される四半期でありました。

さらに、2025年に開催される大阪・関西万博へ向けた機運の醸成と地域活性化に繋げることを目的として、株式会社アイフリークスマイルズが咲洲プレ万博実行委員会と共同で、テクノロジーとアートの力で地域と人を盛り上げるイベント「CREPOS ARアートフェスティバル」を開催いたしました。

これらの結果、コンテンツ事業の売上高は64,473千円（前年同四半期比1.6%増）、セグメント損失は8,329千円（前年同四半期は10,067千円のセグメント利益）となりました。

#### <コンテンツクリエイターサービス（CCS）事業>

コンテンツクリエイターサービス事業においては、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の上昇や、世界的な金融引き締めが続く中での景気への影響など、先行きは依然として不透明な状況が継続するものの、コロナ禍によるDX化の推進等により受注状態は引き続き好調であることから、稼働率は比較的高い水準で推移いたしました。

また、当社ゲーム関連事業における意思決定の迅速化及び機動的な企業運営を強化し、事業執行の確実性とスピード化を図るため、当該事業領域に特化した子会社である株式会社I-FREEK GAMES（以下「I-FREEK GAMES」という。）を2023年5月に設立しました。

さらに、当社グループとかねてより取引関係にあり、ゲーム関連のSES業務に精通したスタッフを豊富に抱え、安定的なサービス提供を行っているエステーエグループとI-FREEK GAMESとの間で、同グループの一部事業をI-FREEK GAMESが譲り受ける旨の事業譲渡契約書を同年6月に締結いたしました。

これらの結果、CCS事業の売上高は585,379千円（前年同四半期比4.3%増）、セグメント利益は75,557千円（前年同四半期比4.8%減）となりました。

（注）製品名及びサービス名は商標又は登録商標です。

(2) 財政状態の分析

流動資産は、前連結会計年度末に比べて28,026千円（2.5%）減少し、1,106,642千円となりました。これは主として、前払費用が11,128千円増加する一方、売掛金が33,212千円、未収還付法人税等が5,214千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて6,340千円（10.5%）増加し、66,826千円となりました。これは主として、無形固定資産が3,634千円減少する一方、有形固定資産が3,057千円、投資その他の資産が6,917千円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて21,685千円（1.8%）減少し、1,173,469千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて29,784千円（10.3%）増加し、318,325千円となりました。これは主として、買掛金が6,739千円、未払法人税等が4,206千円減少する一方、未払金が15,221千円、未払消費税等が20,977千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2,855千円（3.6%）減少し、77,492千円となりました。これは主として、長期借入金が2,859千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて26,928千円（7.3%）増加し、395,818千円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて48,613千円（5.9%）減少し、777,650千円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益を3,942千円計上したことにより増加する一方、配当金の支払により53,518千円減少したことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は3,920千円であります。

### 3【経営上の重要な契約等】

当社は株式会社エスティーイー、株式会社エスティーイーゲインズ、株式会社エスティーイープラス、株式会社エスティーイーアスト、株式会社エスティーイーリアタイズ、株式会社エスティーイーエスペル、株式会社エスティーイーフリント、株式会社エスティーイークリーフ及び株式会社Vエスティーイー（これら9社を総称して「エスティーイーグループ」という）との間で、エスティーイーグループの一部事業を当社子会社である株式会社I-FREEK GAMESが譲り受ける旨の基本合意書を2023年4月19日に締結いたしました。その後、譲受け事業等の条件面の協議を進め、同年6月30日付でエスティーイーグループと株式会社I-FREEK GAMESとの間で事業譲渡契約書を締結いたしました。

詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおりであります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,336,000
計	36,336,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	17,839,641	17,839,641	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	17,839,641	17,839,641	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2023年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	-	17,839,641	-	10,000	-	-

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,836,900	178,369	-
単元未満株式	普通株式 2,741	-	-
発行済株式総数	17,839,641	-	-
総株主の議決権	-	178,369	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	676,443	676,427
売掛金	410,693	377,480
仕掛品	421	1,197
前払費用	33,079	44,208
未収入金	4,730	3,975
未収還付法人税等	7,398	2,183
短期貸付金	11,791	11,791
その他	3,689	4,117
貸倒引当金	13,579	14,740
流動資産合計	1,134,668	1,106,642
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	11,437	14,495
無形固定資産		
のれん	38,874	35,317
その他	1,285	1,208
無形固定資産合計	40,159	36,525
投資その他の資産	8,888	15,806
固定資産合計	60,485	66,826
資産合計	1,195,154	1,173,469
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	16,706	9,966
1年内返済予定の長期借入金	27,801	22,320
未払金	34,694	49,916
未払費用	141,812	144,338
未払法人税等	4,241	35
未払消費税等	28,673	49,650
預り金	34,203	41,481
その他	408	616
流動負債合計	288,541	318,325
<b>固定負債</b>		
長期借入金	77,139	74,280
資産除去債務	3,209	3,212
固定負債合計	80,348	77,492
負債合計	368,889	395,818
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	461,893	461,893
利益剰余金	348,385	298,809
株主資本合計	820,278	770,702
新株予約権	5,986	6,948
純資産合計	826,264	777,650
負債純資産合計	1,195,154	1,173,469

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 1 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
売上高	624,879	649,852
売上原価	433,017	465,190
売上総利益	191,861	184,662
販売費及び一般管理費	169,248	188,703
営業利益又は営業損失( )	22,612	4,040
営業外収益		
受取利息	198	133
業務受託料	586	530
助成金収入	6,657	133
受取保険料	-	4,900
貸倒引当金戻入額	-	1,965
その他	689	683
営業外収益合計	8,131	8,345
営業外費用		
支払利息	197	72
業務受託費用	67	95
その他	6	-
営業外費用合計	271	168
経常利益	30,473	4,135
特別損失		
固定資産除却損	-	107
特別損失合計	-	107
税金等調整前四半期純利益	30,473	4,027
法人税、住民税及び事業税	998	85
法人税等合計	998	85
四半期純利益	29,475	3,942
親会社株主に帰属する四半期純利益	29,475	3,942

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	29,475	3,942
四半期包括利益	29,475	3,942
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29,475	3,942

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、株式会社I-FREEK GAMESを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	440千円	734千円
のれんの償却額	-	3,557千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議日	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株あたり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	53,518	3	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

決議日	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株あたり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	53,518	3	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	コンテンツ事業	コンテンツクリエイターサービス事業			
売上高					
顧客との契約から生じる収益	63,433	561,445	624,879	-	624,879
外部顧客への売上高	63,433	561,445	624,879	-	624,879
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	63,433	561,445	624,879	-	624,879
セグメント利益	10,067	79,398	89,466	66,853	22,612

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	コンテンツ事業	コンテンツクリエイターサービス事業			
売上高					
顧客との契約から生じる収益	64,473	585,379	649,852	-	649,852
外部顧客への売上高	64,473	585,379	649,852	-	649,852
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	64,473	585,379	649,852	-	649,852
セグメント利益又は損失 ( )	8,329	75,557	67,228	71,269	4,040

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	1円65銭	0円22銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	29,475	3,942
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	29,475	3,942
普通株式の期中平均株式数(株)	17,839,641	17,839,641
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	1円65銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	52,013	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

(子会社への事業譲渡)

当社は、2023年4月19日開催の取締役会において、子会社である株式会社I-FREEK GAMESを設立し、当該子会社に対して当社の事業の一部を譲渡することについて決議し、同年7月25日に同社と事業譲渡契約を締結し、同年8月1日に当該子会社に事業譲渡をいたしました。

(1) 事業譲渡の目的

当社は、年齢や性別・国籍・身体的な壁を超えて、人と繋がることができるエンターテインメントであるe-Sportsを新しい文化として発展させていくため、ゲーム関連事業が有するノウハウを結集した、e-Sports関連サービス(イベントの企画、運営、配信、機材貸出、スタッフの派遣等)等の提供に向けた体制構築を進めておりますが、この度、当該事業について、意思決定の迅速化及び機動的な企業運営を強化し、事業執行の確実性とスピード化を図るため、当該事業領域に特化した子会社である株式会社I-FREEK GAMESを設立し、当該子会社に当社ゲーム関連事業を譲渡いたしました。

(2) 事業譲渡の概要

事業譲渡の内容

当社事業のうち「ゲーム関連事業」を株式会社I-FREEK GAMESに譲渡しております。

譲渡部門の2023年3月期における売上高及び経常利益

	対象事業部門(a)	2023年3月期連結実績(b)	比率(a/b)
売上高	499,200千円	2,605,010千円	19.2%
経常利益	22,660千円	150,055千円	15.1%

譲渡資産及び負債の項目

譲渡する資産

流動資産	94千円
固定資産	34,131千円
資産合計	34,226千円

譲渡する負債

該当事項はありません。

譲渡価格及び決済方法

譲渡価額	34,226千円
決済方法	現金決済

(3) 子会社設立及び事業譲渡の日程

子会社設立に関する当社取締役会決議	2023年4月19日
子会社設立	2023年5月16日
子会社との事業譲渡契約締結日	2023年7月25日
子会社への事業譲渡日	2023年8月1日

(取得による企業結合)

当社は、2023年4月19日開催の取締役会において、株式会社エスティーエー、株式会社エスティーエーゲインズ、株式会社エスティーエープラス、株式会社エスティーエーアスト、株式会社エスティーエーリアタイズ、株式会社エスティーエーエスベル、株式会社エスティーエーフrint、株式会社エスティーエークリーフ及び株式会社Vエスティーエー（以下、これらを総称して「エスティーエーグループ」という）から事業の一部を譲り受けることを決議し、同日付でエスティーエーグループと事業の一部譲受けに関する基本合意書を締結いたしました。その後、譲受け事業等の条件面の協議を進め、同年6月30日付でエスティーエーグループと株式会社I-FREEK GAMESとの間で事業譲渡契約を締結し、同年7月1日より事業を譲り受けております。

(1) 事業譲受の概要

相手企業の名称及びその事業の内容

相手企業の名称	株式会社エスティーエー 株式会社エスティーエーゲインズ 株式会社エスティーエープラス 株式会社エスティーエーアスト 株式会社エスティーエーリアタイズ 株式会社エスティーエーエスベル 株式会社エスティーエーフrint 株式会社エスティーエークリーフ 株式会社Vエスティーエー
---------	--

事業の内容 S E S 事業

事業譲受を行った主な理由

当社グループは、年齢や性別・国籍・身体的な壁を超えて、人と繋がることができるエンターテインメントであるe-Sportsを新しい文化として発展させていくため、ゲーム関連事業が有するノウハウを結集した、e-Sports関連サービス（イベントの企画、運営、配信、機材貸出、スタッフの派遣等）等の提供に向けた体制構築を進めており、ゲーム関連のS E S業務に精通したスタッフを豊富に抱え、安定的なサービス提供を行っている実績をもつエスティーエーグループと2023年6月30日に事業譲渡契約を締結いたしました。

事業譲受日

事業譲受け開始日	2023年7月1日
事業譲受け終了日	2023年11月中（予定）

企業結合の法的形式

事業譲受

(2) 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

現在算定中であります。

(3) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現在算定中であります。

(4) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月14日

株式会社アイフリークモバイル  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指 定 社 員 公認会計士 藤 田 憲 三  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 渡 部 幸 太  
業 務 執 行 社 員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイフリークモバイルの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイフリークモバイル及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は、当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。